

19 のこしていききたいつたえていききたいことば

よばれる



〈意味〉

ごちそうになる

〜とちぎ^{しん}人の想い〜

近所^{ようたし}に用達^{しん}に行ったはずの祖父が、
帰りが遅くなった理由として、
「〇〇ちゃんちで、お茶、よばれた。」
とっていました。ごちそうになって
ただけではなく、楽しく話をして和
やかな時間を過ごしてきたことも、伝
わってくる一言^{ひとこと}でした。

〈こんなときに使います〉

- 他人から食べ物^とをもらったとき
「隣の家^{とも}から桃^{もも}をもらったから、よばれよう。」
「このあいだ、〇〇さんちでおいしいいち
ごをおよばれたのよ。」

〈プラス1情報〉

- 「よばれる」は、招かれる、招待^{しょうたい}される意味
にも使います。「ごちそうになる」という意
味と、場面に^{あつこん}に応じて使い分けてきました。
「〇〇さんの結婚^{けっこん}式^{しき}によばれていって、お
なかいっぱいよばれてきたよ。」
この話の、はじめと、あとの「よばれて」
の意味は違います。
→〇〇さんの結婚^{けっこん}式^{しき}に招待^{しょうたい}されていって、
おなかいっぱいごちそう^{ごちそう}になってきたよ。

20 のこしていききたいつたえていききたいことば

雷様 (らいさま)

〈意味〉

雷 (かみなり)

雷様^{らいさま}が来た^{かく}たら、
おへそを隠^{かく}すまる。



〈こんなときに使います〉

- 雲行きを見て・・・
「こらあ、夕方は、雷様^{らいさま}だなー。」
「もうすぐ雷様^{らいさま}来^くそうですね。」

〈プラス1情報〉

- 栃木県は夏に雷が多いとされています。
- 水田に水が必要^{あそ}なときに恵^{あそ}みの雨^{あそ}をもたらすことか
ら、自然現象^{しぜんげんじょう}への畏^{おそ}れや敬^{ひく}意^いを含む、親^{おや}しみを込^こめた
ことばでもあります。
- 言い伝えとして、大きな雷が近^{ちか}付^ついてきたら線香^{せんこう}を立
てて「くわばらくわばら」と^{くわ}繰り返^{くわ}し唱^なえるといっ
ものがあります。葉^{くわ}の葉^{くわ}が雷^{くわ}よけの葉^{くわ}といわれているこ
とに由来^{ゆらい}しています。
- 雷^{かみなり}が鳴^なったらおへそを隠^{かく}すといわれますが、おへそを
隠^{かく}す姿^{すがた}勢^{せい}が、頭^{あたま}を低^ひくし、雷^{かみなり}から身^みを守る姿^{すがた}
勢^{せい}になるからだともいわれています。